

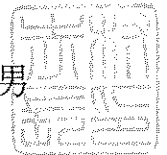
20赤産建第541号1

平成20年10月 9日

国土交通省道路局長 殿

福岡県田川郡赤村

赤村長 和田 睦 男



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のあった標記の件について、別紙のとおり提出します。

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

福岡県田川郡赤村

農山村地域を取り巻く道路状況は、都市部に比べ整備が遅れており、特に近年の交通機関の現状は農村部においては、路線バス等の公共交通機関が廃止され、自家用車での移動以外に頼るすべがないのが現状であります。早急に道路整備を行ない、生活環境の整備のため国からの支援を頂くことが急務であります。

赤村における、村道整備は、補助金対象の規定が厳しく、国の補助金を受け整備することが困難であります。このことから本村において今後、道路整備を実施するに当たり負担が厳しくなるため次の点について改善・要望をお願いいたします。

- ① 既設舗装における老朽化対策(補修)について支援対策。
- ② 農山村における生活道路(村道)の整備について支援対策。
- ③ 歩道設置における歩道幅員の緩和措置(農山村生活道路の、歩道幅員の緩和措置・農山村地域の歩道は1.5mでよいのでは)
- ④ 老朽化した橋梁架け替えに対する支援対策。

○ 現状

1. 村道における国の補助採択基準制度が厳しいため、多くの道路整備は、単独事業で対応してきましたが、財政状況が厳しい本村においては、その整備、対応が遅れています。
2. 昭和50年から昭和60年にかけて舗装整備をおこなった村道について、老朽化が進み、その対策が急がれている。
しかし、財源の厳しい赤村は対応が遅れている。
3. 既設橋梁において、架設時の強度と現在の強度が社会の現状から強度不足が生じている。その対応が急務である。

○課題

国の市町村道に対する補助基準の見直し。(緩和化)

いずれの事項においても、財政事情の厳しい中、国の補助金に依存しなければ道路整備を行うことはできない。農山村に適した道路整備採択基準の見直し、交通量の少ない道路の緩和措置等、農山村地域の道路整備を行いやすいようお願いしたい。

(農山村は公共交通機関がなく自家用車がなければ生活できないのが現状である。)

農山村としての役割、都市部としての役割があり、21世紀は環境の世紀である。環境を守るとは農山村を守ることであり、農山村は空気・水を生み出しており、人間が生活して行くうえ、自然を生み出すのは農山村地域である。農山村を守る対策を講じるべきである。

農山村に適した生活し易い道路整備が必要である。

人や経済が集まる都市部、自然や第1次産業が集まる農山部、それぞれに役割があるが、21世紀は環境の世紀であるといえる。農山村部は、空気や水を浄化し、人間が生活していくため必要不可欠な自然を守り、生み出している農山村を守っていくことは環境を守ることになり、農山村を保護する対策は、今後の施策の優先課題となってくるであろう。

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域活力の向上 ・総合的な交通安全対策及び危機管理の強化 ・少子・高齢社会に対応した子育て環境、バリアフリー社会の形成 ⋮	赤村は、基幹産業は農林業であり、現在の農林業は厳しい状況にある。しかし、農産物偽装が多発しており、また今後、食糧不足が起こると予想されている中、農山村の果たす役割は食糧生産地とあわせて環境生産地として果たす役割は大きなものがある。そのため、農山村に適した道路整備を急がれる。 農山村地域と、都市地域の道路網整備・安全施設・制度基準の見直し。	農山村の果たす役割、食料の生産・環境の生産地に寄与する。 農山村部における補助制度基準の見直しにより、道路整備の事業額が安くなる。	